

変形性膝関節症患者の 新たな希望となるか 「ラジオ波治療」の実態とは？

加齢に伴う膝の痛み悩まされる人は多いが、今、この半永久的な悩みを解決へと導く新治療が登場しているをご存知だろうか。

薬物療法やリハビリテーションといった「保存療法」、あるいは人工関節置換術に代表される「手術療法」のどちらかとされていた変形性膝関節症の治療において、新たな選択肢として加わったのが「ラジオ波治療（末梢神経ラジオ波焼灼療法）」だ。

2023年に保険収載されたことで、にわかに注目を集めているこの治療について、県内初導入を決めた小豆島山上整形外科医院（小豆島町）の山上佳樹院長に話を聞いた。

小豆島山上整形外科医院

小豆島町西村甲 1822-1 Tel.0879-61-9500

山上佳樹院長



▼導入の経緯は

当院は2023年10月に、小豆島唯一の整形外科医院として小豆島町西村地区に開業しました。ラジオ波治療を導入したのは、2025年2月です。既にこの治療を導入済みだった県外の医療機関を見学させていただき、県内初導入を決めました。進行した変形性膝関節症の痛みを軽減するためには、やはり手術療法、人工関節置換術が有効です。しかし、年齢や持病、家庭の都合などで手術が選択できないケースも多いことから、保存療法で痛みが改善しない方々に、この治療を提案したいと考えました。

▼どのような治療なのか

ラジオ波治療は、末梢神経ブロック療法に分類される治療法です。末梢神経ブロック療法とは、痛みを伝える知覚神経を選択的にブロックすることにより、痛みの軽減を目指す治療法を指します。

通常は麻酔薬を用いることから、多くの場合、効果が数日で失われてしまうのですが、ラジオ波治療は知覚神経をラジオ波によって焼却（焼灼）するため、効果が約1年間持続するといわれています。ラジオ波は電磁波の一種ですので、同じ電磁波

を用いる電子レンジの加熱方法をイメージしていただくとうわかりやすいでしょう。

実際の治療では、片膝に対して3ヶ所、局所麻酔下に専用の針を刺入（しにゅう）して、針の先端から球状に加熱することにより、神経を変性させます。神経の位置は超音波を用いて確認し、知覚神経のみを処置します。神経の同定のしやすさにより多少前後しますが、治療時間は片膝あたり30〜40分程度です。大きな異常がなければ、治療後は歩いて帰ることができます。

▼この治療の欠点は？

現時点で保険収載されているのは、変形性膝関節症のみです。また、保存療法で効果がなかった場合のみに対象が限定されています。

治療においては、痛みを伝える神経を1ヶ所あたり2分30秒にわたって熱処理するため、処置時に強く痛みが出る場合があります。この場合には、局所麻酔を追加しながら処置します。痛みは術後2〜3日で消失するケースがほとんどです。

加えて、必ずしも望んだような効果が得られるとは限らない、という点にも注意が必要です。多数ある痛みを伝える知覚神経の中でも、この治療法で処置できるのは3本だけで

あり、その神経が有意でない場合には、効果が感じられない可能性もあるわけです。私たち治療者もその点が心苦しいのですが、そもそも膝の痛みで生活に困っている方、気軽に外を歩けない方を一人でも減らしたいという想いで、早くからこの治療に取り組んでいます。

▼治療にかかる費用は

診療報酬は、片膝あたり1万5000点です。1割負担であれば、費用は1万5000円となります。

ただし、年齢によっても高額療養費の負担額が異なるため、実際の窓口での支払額は大きく異なります。

▼読者にメッセージを

ラジオ波治療は、まだまだ始まったばかりの治療です。当院ではどの程度痛みが改善されたかを定期的に評価し、適切な術後の痛みの管理を心がけています。

保存療法でも手術療法でも、そしてラジオ波治療でも痛みをゼロにすることはできませんから、患者さんお一人お一人にとって最も適切な治療を、医療者側が見極めることも大切ですが、当院は様々な治療の境界線を正しく見極めながら、これからも膝の痛み苦しむ方々に寄り添い続けたいと思います。